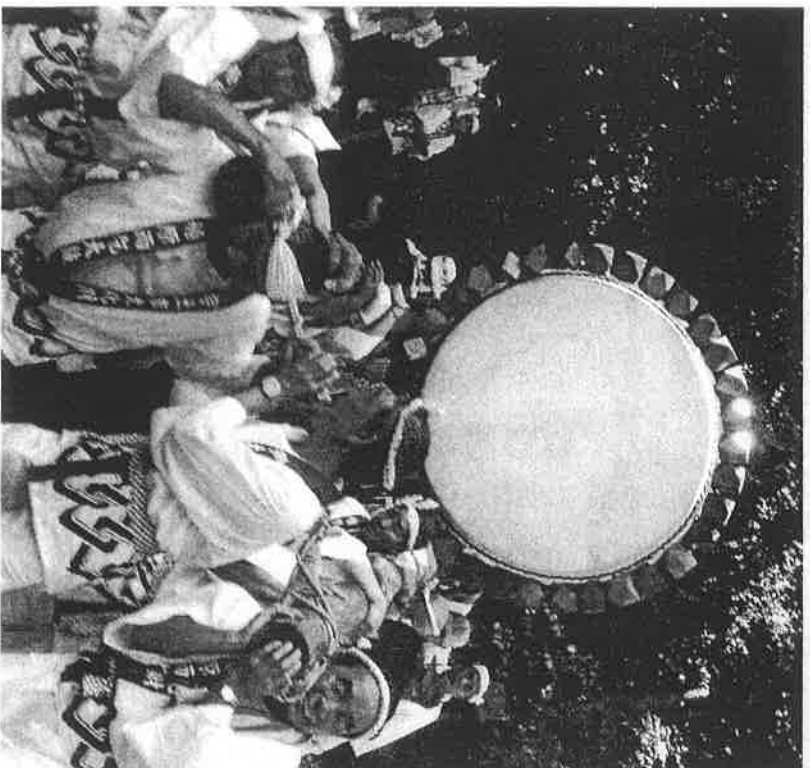


椿原太鼓保存会



概要

設立年月日 昭和63年7月1日
区 長 上野司 (うえのつかさ)
会 員 数 463名
住 所 宇土市椿原町962
主な活動地 宇土市

地域文化活動部門

榑原太鼓保存会は昭和六十三年に結成され伝統的な雨乞い行事が衰退していく中、地域一体となって伝統芸能の継承に尽力し、宇土市では唯一旧来の奉納の形を忠実に守っています。

榑原雨乞い大太鼓は、明治十七年に作られた直径百三十cmのケヤキの一木造りの大太鼓で戦前は雨乞いまつりで盛んに使われていました。戦後は放置されていたつりですが、昭和四十八年に修復を行い、途絶えていた榑原八幡宮への太鼓奉納行事もこの年から三年に一度行われるようになりました。

榑原八幡宮大太鼓奉納では、太鼓にくくりつけられた担ぎ棒二本で太鼓を担ぎ、榑原八幡宮への八十三段の狭く急な石段を三十人余りの男性で一気に上がり、境内で「ガブリ」（太鼓を左右に大きく揺ること）や、子どもや女性たちが笛の音に合わせて「ねんねこ踊り」「雨乞い太鼓踊り」を披露奉納するものです。

また、地区内の活動だけでなく、「宇土大太鼓フェスティバル」に毎年出演するなど各種イベントにも参加し、地域文化の活性化・向上にも大きく寄与しています。

これまでの活動歴

昭和四十八年	榑原雨乞い大太鼓修復 形民俗文化財に指定 「榑原雨乞い太鼓踊り」宇土市指定無
昭和六十一年	宇土太鼓フェスティバル以後毎年出演 行事開催 昭和六十三年 保存会結成
平成元年	北九州市「わっしょい百万夏祭り」出演
平成二年	東京ドーム「ふるさとフェア、90」
平成十六年	宇土市文化体験プログラム出演
平成十七年	宇土市文化体験プログラム出演

榑原雨乞い大太鼓の紹介

面径 百三十cm
胴回 五百十三cm
胴長 二百七cm
総重量 一・五トン
ケヤキの一木造り